



学校だより 開 桜 1 月 号

令和 7 年 1 月 8 日
大田区立開桜小学校
校長 森 伸一

「笑う門には、福来る！！」

校長 森 伸一

新年明けまして、おめでとうございます。保護者、地域の皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年も、こどもたちの健やかな成長を願い、教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。今年も変わらぬご支援・ご協力の程、宜しくお願い致します。

2025年は、巳年。蛇は古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に変わっていきます。巳年、新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢で進んでいきたいと思っています。

さて、「笑う門には、福来る」という諺を聞いたことがあるかと思います。朗らかに明るく笑っていると幸運がやって来るという意味を表しています。笑うと、脳の中でエンドルフィン（快楽物質）という脳内ホルモンが盛んに分泌されるようになり、この分泌が盛んになると自然に気持ちが明るく、楽しく前向きになっていくというのだそうです。笑いには、確かに「健康になる」「人間関係がうまくいく」「運命が上向く」「仕事がうまくいく」といったことがあるように思います。その一方で、家事や仕事、子育てや介護などで「今は、笑っている場合ではない」という人も多いと思います。また、苦しい状況に陥っていて、「笑える心境ではない」という場合もあります。しかし、そのような時こそ、是非、笑顔を作ってみてください。アメリカの哲学者ウィリアム・ジェームズは、「私たちは、笑うから幸せになれるのだ」と述べています。また、ある調査によれば、小学生は、1日平均300回程度笑うのですが、「日常生活でよく笑うほうですか？」という問いに対して、30代の方は、65%の方が「はい」と答え、40代になると50%に減り、50代になると45%に減ったという結果があるそうです。ドイツの哲学者ニーチェは、「笑いとは、地球上で一番苦しんでいる動物（人間）が**発明したもの**である」とも述べています。笑い方にも気を付けながら、おた教育ビジョンの理念「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てる」ため、そして、「みんなを幸せにする学校」の実現に向けても、まずは自ら温かい笑顔作りに努めていきたいと思っています。皆さんも、是非、試してみたいはいかがでしょうか。

1月の生活目標

言葉遣いに気をつけましょう

生活・保健部

「たった一人の一言が、人の心を温める」「たった一人の一言が、人の心を傷つける」。どんな人でも、どんな時でも自分の言った一言が他人に大きな影響を与えることがあります。新しい年を迎え、改めて自分が発する「言葉」の影響力をよく考え、言葉の選び方や言い方も考えられると良いですね。

ご家庭でも、こどもたちが家族や地域の方との関わりの中で気持ち良く生活できるように、よりよい言葉遣いができているか、話題にしていただけるとありがたいです。

5年生の様子

東京羽田ヴィッキーズ 出前授業

5年

12月12日（木）に、女子プロバスケットボールチームの「東京羽田ヴィッキーズ」の方々を講師としてお招きし、5年生に出前授業をしてくださいました。瞬発力を向上させる運動などバスケットボールに必要な運動技能が向上するような活動をしました。この学習をきっかけにバスケットボールやその他のスポーツへの興味関心が広がり、運動技能の向上につながると良いと思います。



算数

算数の基礎的な知識を問う国際学力調査の結果が公表され、日本の算数は前回と同様5位でした。1位はシンガポールでしたが、学ぶべき点は多いと思います。シンガポールは、戦後早くから人的資源への投資に努めました。特に教育環境を充実させ、ハブ港としての経済政策を踏まえ国民に語学を奨励しました。

「何のため」の学力か、の意識を高くもち大きな目的に向かって進んでいきたいものです。

家庭科

今年度は展覧会がありました。

5年生は初めてのミシンでの製作としてミニトートバックを、6年生は立体作品としてペンケースを作りました。

6年生は小学校生活最後ともあって、作品が立体的に仕上がってくると、やる気やパワーがみなぎり、刺繍やアップリケ飾りなどを丁寧に仕上げていました。

お手伝いくださったボランティアの方に、感謝いたします。3学期は調理実習があります。

図工

今年度は展覧会がありました。「思いを色や形に」をテーマに行いました。図工の授業では、自分の色や形を伸び伸びと表現しました。

こどもたちは、楽しみながら、夢中になって作品作りに取り組んでいる姿が見られました。夢中になって過ごす時間は、こどもたちにとって大切なことだと考えます。

これからも、こどもたちに時間が経つのも忘れて、夢中になって取り組める時間を授業の中でつくっていききたいと思います。

音楽

音楽はその字のとおり「音を楽しむ」と書きます。ドンドンドンというリズムが聞こえると、なぜか手打ちしたり足踏みしたり自然に体が反応します。人は生まれる前からお母さんの心臓の音を聞いています。それは人が初めて感じる音楽なのかもしれません。こどもたちは打楽器に触れて音を出すことが大好きです。誰に教わることもなく感覚的にドンドンドンのビート (beat) にお母さんの心臓の音を感じ、安心感を得ているのかもしれません。

読書活動・開桜小読書週間

大田区の読書月間を受け、春と秋の年間2回にわたり「家読 (うちどく)」の取り組みをお願いさせていただきました。今年度もご協力ありがとうございました。家読では、家族で読書の習慣を共有することを大切に、こどもたちに家庭での読書習慣を身に付けさせ、読書力を高めることをねらいとしています。家読をきっかけに家族みんなで本に親しみ、読書的话题でコミュニケーションを深めていただけていたら幸いです。

本校では、朝読書の時間を設けたり、さくらんぼさんの読み聞かせを通して本に親しむ時間を確保したりしています。また、今年度も図書委員会の児童が読書週間に向けて様々な取り組みを用意し、全校児童に楽しんで取り組んでもらえました。来年度も様々な取り組みを行っていきたいと思っております。

図書担当